山陽堂だより 100

2017 年 11 月霜月

SANYO-DO SHOTEN
山陽堂書店
03-3401-1309

10月の書籍ベスト5

1. 「考える人」は本を読む
河野通和著 角川書店
2. 片想い 東野圭吾著
文春文庫
3. 冷蔵庫を抱きしめて
荻原浩著 新潮文庫
4. 忘れられた巨人
カズオ・イシグロ著 早川文庫
5. たしなみについて
白洲正子著 河出文庫
5. 孤独と不安のレッスン
鴻上尚史著 大和文庫

11月休業日のお知らせ

・11/11(土) 11/18(土)
休み
雑誌・書籍の入荷はありません。
・通常通り日・祝休み

今月のことば

消えることのない光はいつも、
暗いところに隠れているのである。
若松英輔
「悲しみの秘義」より

10月の雑誌ベスト5（店売のみ）

1. Spur 11月号 ふろく mm6ポーチ
今欲しい秋服すべて
2. Oggi 11月号 ふろく Gucciコラボノート
この秋シンプルはベーシックに進化する
3. GINZA 11月号
東京の服
4. 家庭画報 11月号
紅葉を礼讃する
5. VOCE 11月号
30才からは肌がキレイが美人なんです。

11月30日(木) 19時より

『光の犬』松家仁之著刊行記念トークイベント

『光の犬』の絵について
― 武満徹、グレン・グールド、コーネリア・フォス

『光の犬』の装画は、コーネリア・フォスというアメリカの女性画家の絵です。松家さんはこの画家の絵を「芸術新潮」の編集長時代、〈武満徹特集〉で初めてごらんになって、とても印象に残っていたそうです。
武満さんの遺品のなかに一枚の絵はがきがあり、それがコーネリア・フォスの風景画でした。
コーネリア・フォスの夫は、高名な作曲家ルーカス・フォス。
武満徹とルーカス・フォスは親しい友人同士でした。
さらにコーネリア・フォスは、ピアニスト グレン・グールドともゆかりの深い人だったのです。『光の犬』という本のカバーにあしらわれた1枚の絵。
そのエピソードを入口に、新作長編めぐってさまざまなお話をうかがいます。
・参加費2000円(込)。場所 山陽堂書店2F ・お申込方法 店頭へ HP. または03-3401-1309からどうぞ。

山陽堂だより100号到達記念展示 11/15(水) - 12/1(金)

今から8年前の2009年9月に第1号を発行、毎月その月のうちに発行できればよいと、はじめた山陽堂だより。なんとか、100号までたどりつくことができました。
この度、山陽堂書店2階のギャラリーにて、全号をご覧いただけるようファイリングいたしました。ご興味のある方は、ぜひお立寄りください。
お待ちしております。(11/18と日・祝休 月-金 11時-19時 土 11時-17時)

『万年筆からはじまる物語』より

ギャラリーを訪ねてくださった方に前の人が書いた文につなげて物語をつづってもらっています。

投げかける言葉のひとつで
人の感情はかわる。大切な人に
適切な言葉を選びたい。
↓
今、こんなにさわいでいることも
きっとちっぽけなことにかわっていくんだろう。
↓
笑い話
結婚して2年、仙台への単身赴任が決まった直後だったので、心に響きました。笑い話
↓
山 夕 月 静 好 （外国の方のようです）
オレンジ・ピンク・うすむらさき、日によってちがう夕暮れ、そこから藍色に変わる秋が好きです。
↓
生まれてくるときも、そしてこの世とさよならするときも、ひとり。
ひとりの時間を愛しく思えるようになりました。大切な人がいて
大切な猫がいて幸せだけど たまにひとりで歩きたくなる。
↓
今日は初めて表参道をブラブラ こんなすてきな本屋さんに出逢えて幸運です。

アリガトウ
ゴザイマス

ひとりの時間もみんなでいる時間もだいじにしたいです。ずっとひとりぼっちはいや。いつもまわりに人がわいわいがやがやもいや。ほどほどが……いい
↓
こんなことが言えるのってぜいたくかな…。すっごくぜいたくな気がしてきた。
喫茶店で勉強すると、自分の部屋でするよりハカドル。^^
それは孤独がまぎれるから。人はぬくもりを欲しているのだから、
↓
日々日常。そして彼はそんなぬくもりを持って、今、ここへ向かってくれている。 I'm waiting.
ひとをみているとわくわくする どきどきする ときめくのだ!!!
だから元気なくなってきたらひとをみにいく…だれでもいい。
↓
だからそして又生きてることが
おなかの底がぽおっとあったかくなる。そして又生きてることが楽しくなってくる。
あったかいうちは大丈夫だ。もうだめだと思っても、
↓
ナミダがあったかいうちは大丈夫。さ、今日もお仕事です。
涙はことばだ。上手に言えない感情が、涙になってあふれてくるのだ。
もしかしたら、その涙に名前をつけてはいけないのかもしれない。
↓
だから静かに泣くべきだ。
父の涙をはじめて見ました。「みんなが幸せになってほしい」と
↓
願う気持ちは痛いほど伝わってきました。
もう、がまんしないでためないで、かんじたものをそのままカタチに。
たのしみながら。